



第二中学校だより

R6 ミッション 「期待の登校、満足の下校」

令和6年7月号

↓二中ホームページ↓



「ルール」より必要なものは？

校長 小関 直

役割分担で成立するクラス

クラスのシステムを機能させていくうえで大切なのは役割分担です。特に大切なのは当番活動です。学級で不便なく生活するために必要な役割を分担し、ルールにしたがって活動します。日直当番、そうじ当番、給食当番がその代表格です。おそらくこの当番活動がない学校は存在しないのではないのでしょうか？

例えば給食当番。給食の時間になると、当番は給食着に着替え、一生懸命食器におかずやご飯をよそっていきます。他の生徒は、それらを受け取り、次々に配膳していきます。35人程の給食を授業終了後10分で配膳し終えるのですから、素晴らしいシステムです。片付けもまた全員でやります。役割は決まっていますが、気づいた生徒が進んでカゴやケースを並べ、ルールに従って片付けていくので、数分で終わってしまいます。本校の場合、どのクラスも同じルールで活動するので円滑ですが、それでもクラスの差は出ます。それは「気づき」の差です。

「気づき」の差

これは、日直やそうじ当番でも同じことが言えます。当番は、不便なく生活するために不可欠なものですから、嫌でも決められたルールに従ってやらなければなりません。ルールに従って義務的に取り組むのか、率先して主体的に取り組むのかによって、差は歴然と出ます。それは、そうじ当番の様子を見ればわかります。同じルールで活動していても、廊下を美しく磨き上げる班もあれば、ホコリを残していく班もあります。その差は、やはり「気づき」の差だと思います。

ルールを超える行動力

よく気づく生徒の行動には、共通点があります。それは、誰かに何かをやれ!と言われたわけでもないのに、主体的に行動してくれているという点です。教育の世界ではこれを「ルールを超える行動力」と呼

ぶことがあり、表題の答えにもなっています。誰かに強制されることなく、今の状況を捉え、どのような行動力が求められているのかを判断し、その時点で取り得る最も適切な行動を起こす力のことです。

修学旅行におけるエピソード

今年の修学旅行は、昨年のようなトラブルにあうことなく、2泊3日で戻ってくることができました。その中でとび切りうれしいことがありました。それは、奈良での班活動を終えたある班が、たまたま乗り合わせた電車の中での出来事です。何かしらの原因で、シートや床が汚れていたそうです。それに気づいたその班の生徒が、自分たちのティッシュでその汚れをふき取り始め、その後駆け付けた鉄道会社の方と清掃を行ったというのです。その出来事を知ったのは、本人たちからではなく、乗り合わせていた乗客の方からの情報でした。こんなにうれしいことはありません。おそらく誰かの「気づき」が行動となり、それに「共感」した生徒が行動を起こした結果ではないかと思いません。その日の夕食でその善行が紹介され、大きな拍手が巻き起こりました。共感が広がった瞬間です。

学校におけるルールの役割の変化

学校や学級には、実に多くのルールや決まりがあります。でも結局のところ、そのルールで縛るのではなく、みんながみんなの幸せを大切にしていこうという心情を育てることが大切なのだと思います。

20年前のような中学校が荒れた時代ではありません。過度な校則や、教員の厳しい指示、命令で、集団管理するだけでは、本当の「生きる力」は育ちません。必要なルールの上に、よい「気づき」を引き出す肯定的な指導を重ねることで、よい集団ができていきます。「主体的、対話的で深い学び」と言われるのです。教員の力量、繊細な指導力が問われる大変な時代になってきました…。